

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成25年9月18日

「キャンプ砂防in雲仙」を実施！ GBSARの視察は初の取り組み

発信元

雲仙復興事務所
調査課 峰松 知裕

平成25年8月26日～30日の5日間、「キャンプ砂防in雲仙」を実施し、北海道、岩手、三重、広島から大学生4名が参加しました。

雲仙のカリキュラムでは、長崎大学名誉教授高橋氏、内閣府火山防災エキスパート杉本氏、安中地区まちづくり推進協議会長大町氏による講義のほか、無人化施工体験、普賢岳登山、さらにはホームステイもあり、参加した学生は砂防事業だけでなく島原復興における地元住民と行政との密接な繋がりについても学ぶことができたのではないかと思います。

また、溶岩ドームの挙動観測に用いている地上型合成開口レーダー（GBSAR=Ground Based Synthetic Aperture Rader）の機器の視察は今回が初めてであり、観測システムの説明に参加した学生も熱心に耳を傾けていました。

○What's “キャンプ砂防”？

キャンプ砂防は、中山間地域の現状を実際に体験できる場を全国の学生に提供し、地域の抱える問題点、活性化の支援のあり方、防災対策のあり方を学び、中山間地域における砂防の意義・役割を考えることを目的として平成8年度から実施されています。

○1日目(8月26日)



開校式



現地視察（災害遺構等）

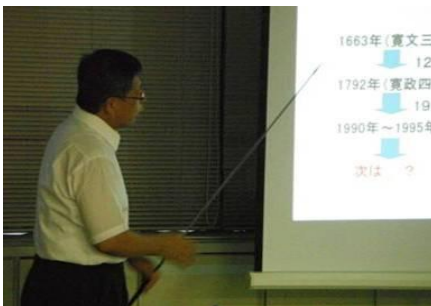


現地視察（災害遺構等）

○2日目(8月27日)



長高大橋名誉教授の講義



内閣府火山防災エキスパート
杉本氏による講義



無人化施工について職員による説明

○3日目(8月28日)



無人化施工を体験する参加学生



普賢岳登山



普賢岳登山(山頂到達！)

○4日目(8月29日)



安中地区まちづくり推進協議会
大町会長の講義



事務所防災室にて観測機器の視察



GBSAR観測機器の視察

○5日目(8月30日)



成果発表

テーマ「砂防事業と中山間地域における今後の持続的発展の方策について」



閉校式(修了証書授与)



最後はみんなで集合写真！

○参加学生の声(レポートより抜粋)

・災害からの復興には行政の力だけではなく、住民の強い意志が必要であると学んだ。キャンプ砂防で学んだことは東日本大震災で被災した町にも活かせると思う。<岩手大 3年>

・土石流に対する砂防ダム、溶岩ドーム監視体制の視察などを通して、災害から20年経った今も災害の影響を強く受け、島原は火山災害と共にあるのだと、今回の事がなければ知らなかった事の多くに気づく事ができた。<北海道大 4年>